

◆熱射病はすぐ連絡を

よく畜主の方から、熱射病と日射病の違いについて質問を受けますが、両者とも原因は異なるものの、病態生理などは全く差がなく、同じ病気として取り扱われています。

直射日光の下、または高温多湿の牛舎内など、体熱を放散できない環境になったときは要注意です。このような環境下で、40度以上の体温とともに、呼吸促進、意識の混濁が認められれば、ほぼ本症に間違いありません。致死率の高い病気ですので、発見したならば、すぐに獣医師へ連絡をお願いします。

発見後の冷水の給与、頭部、前軀へのかん水は、予後に大きくかかわってきますので、必ず行ってください。畜舎内の空気が滞る場所、日陰のない運動場は要注意です。